

図書館展示計画委員会報告

平成12年度は、春季及び秋季の2回特別展を開催した。

春季特別展

「本草への招待 - 本草書とその周辺 - 」

平成12年4月1日(土)～6月30日(金)

本草は、古代中国で生まれた薬草のことで、本草書とは、人の病の治療と養生に用いる薬を記述したものである。日本には奈良時代大陸の諸文物とともに渡来し、江戸時代にとくに盛んとなった。

今回の展示では、今日伝わる最古の本草書「神農本草経」の影印本や現代語訳版をはじめ、岡西為人が宋代以後の本草書から捨輯し、経文は朱書、その他の注は墨書して区別し、本来の形で復原した「重輯新修本草」や横井金谷が「爾雅」の積草上下から我国に馴染の深い草木を選び、多くの画家に書かせて2帖に仕立てた「爾雅積草図」など、さらには、日本に渡来した後、日本独自の発展をしたといわれるものとしての岩崎灌園の草木の栽培法について記述した「草木育種」や平賀源内の「物類品鑑」など30点を展示した。

秋季特別展

「生誕70周年記念 開高健展」

平成12年10月16日(月)～12月16日(土)

記念講演会

対談「開高健を語る」

編集者 背戸逸夫氏 山野博史図書館長

平成12年11月18日(土)

於：総合図書館3階図書館ホール

開高健の早すぎた死からはやくも十年がたち存命ならば古希を迎えるはずの今年、生誕70周年記念として本展示を開催した。

関西大学図書館が所蔵する「大阪文芸資料」のなかで、開高健ゆかりの資料は自筆原稿、書簡、色紙、初出誌、各種初版本、参考文献など、質量ともに内容が充実しているもののひとつである。今回はこの中から、若き日につどった同人誌『えんぴつ』のオリジナルをはじめとする大阪で活躍した時代の資料を中心に、出世作「パニック」の自筆原稿や各賞受賞作、代表作、特装本、ポスターなどを展示した。

本草への招待 - 本草書とその周辺 -



『草木育種』

生誕70周年記念 開高健展



『えんぴつ』ほか

若き日の開高と親交のあった方から拝借した資料を含め約50点を展示し、その一部は展示終了後大阪文芸資料として寄贈を受けた。

あわせて編集者として開高健とかかわりのあった背戸逸夫氏をむかえて山野図書館長が対談した。東京へ移ってからの開高健の人と仕事について、興味深いお話をうかがうことができた。